

「市民と語る会」開催報告書

令和8年度 1 回目の「市民と語る会」を開催

7月21日、文化の杜交流館コモッセ講堂を会場に、青垣山の自然と景観を守る会と青垣山の自然を後世に残す会より申請をいただき、「市民と語る会」を開催しました。

市民と語る会には広報委員長をはじめ議員 10 名が出席し、市民との意見交換を行いました。



〈質疑応答〉

Q① 風車が建ったら本当に地元の雇用が増えると思っているか。(全員回答)

赤坂広報委員長 建設期間中は数百億円規模の工事費から地元業者への仕事が見込まれるほか、固定資産税収入も発生する。

松村議員 雇用に繋がる部分はあると考える。

保田議員 多少はあるが、地域産業としては定着はしない。

安保議員 建設工事・宿泊関係での雇用増が見込まれる。

綱木議員 直接的な雇用は大きくないが、関係企業等へのメリットはある。

佐藤議員 あるようにしなければいけないと考えており、事業者の配慮が必要。

丸岡議員 工事中はあるが、完了後は保守・メンテナンスのごく少数にとどまり、期待以上の雇用は生まれないと思っている。

成田議員 多少なりともあると考える。

浅石議員 現時点では判断できない。

宮野議員 若干あるのではないか。

Q② 道路建設による生態系へのダメージ、バードストライクの問題についてどう考えるか。

佐藤議員 人間の活動は常に環境に負荷を与えており、再生可能エネルギーの選択肢として風力発電は重要と考える。この風力発電計画がまずいかどうかは環境影響評価の中で示されていくことであり、総合的に判断すべきと考えている。

Q③ 売電収入は鹿角市に本当に入ってくるのか。風車は鹿角市のものになるのか。また、電気の送電先はどこか。

赤坂広報委員長 風車は鹿角市のものにはならないが、償却資産として固定資産税の課税対象となる。事業者のうち1社は「かづのパワー」を通じた地元供給の話もあり、その場合は域内での売電収入が発生するものと考えている。

保田議員 風車の耐用年数は20年でFIT制度も同期間で終了し、その後は売電価格が激減する。収入は投資家(国内外)に流れる構造であると聞いている。

※グリーンパワーインベストメント社は東北電力の送電系統に乗るため地元には直接来ないこと、かづのグリーンエネルギー社については安い電力を提供するとの説明が後に否定されるなど説明の一貫性に問題があるとして、会の中で参加者から情報提供された。

Q④ デメリットについてどのように考えているか。

保田議員 メリットよりデメリットが上回ると考えており、電力供給の不安定性・水源への影響・土砂流出などのリスクがある。

松村議員 デメリットとして自然環境・生態系、土砂災害、濁水等のリスク、景観という部分はあると思っており、引き続き事業者の動きを注視していく。

赤坂広報委員長 景観・自然環境への影響、工事に伴う土砂・水質・災害リスク、住民説明の不足による地域内対立の可能性がデメリットとして考えられるが、現在実地調査中であり、結果が出てから判断すべき。

Q⑤ 20年後に撤退した後、風車及び土地の所有権が変わった場合の危険性はないか。

丸岡議員 計画地は国有林であり、事業者は土地を国から借地しているため、土地の所有権が

変わることは想定しづらい。

保田議員 山形県庄内町では1基1億5,000万円の撤去費用がかかった事例があり、廃棄・撤去コストの問題が残っている。廃棄までの費用負担は関係事業者が負うべきであり、住民負担を増やすべきではない。

赤坂広報委員長 法令に基づき事業者は建設費の5%程度を撤去費として積み立てているとの説明があり、撤去費用は確保されているという理解である。

Q⑥ 旧花輪鉱山の坑道があり、毒水流出の危険性があるのではないか。

赤坂広報委員長 毒水が出てくるという懸念は承知している。現在、旧尾去沢鉱山については市内の事業所で排水処理を行っており、旧花輪鉱山でリスクが発生した場合は中和処理等の適切な対応が行われるものと考えている。坑道の全容把握のためのボーリング調査の結果を待ちたい。しかしながら、ボーリング調査だけですべての坑道を把握することは難しく、必要に応じて追加調査が求められる可能性もあると考える。

成田議員 事業者が旧坑道の位置を当然避けるべき考えで進めていると聞いており、その形で進めてくれると考えている。

丸岡議員 旧花輪鉱山エリアを避けた計画を立てている事業者と、全くお構いなしの事業者の2社がある。鉱山エリアは非常に軟弱な地盤であり、その上に風車を建てる計画自体、普通であれば考えられない。

Q⑦ (アンケート未回答者の)網木議員・成田議員・宮野議員がアンケートに回答しなかった理由は何か。

網木議員 アンケートの取扱い(今後の会合・報道への使用)が不明確だったため提出しなかった。

成田議員 締め切りに間に合わなかった。

宮野議員 市の環境保全審議会の委員を務めており、調査結果が出る前に意見を表明することが適切でないと判断したため。

Q⑧ 坑道が二つあることはご存知か。非常に危険な山ではないか。

丸岡議員 旧花輪鉱山は閉山時に水を入れなくても坑口から水があふれてくる状態の鉱山であった。上から圧がかかった場合の危険性は明らかであり、絶対に風車を建てる場所ではないと考える。

Q⑨ 保安林解除について、市として県に審査内容・許可条件の公開を求める考えはあるか。

また、市民が検証できる形での情報公開を市議会として県・国に働きかけてほしい。

赤坂広報委員長 本日の会は議会として意思決定をする場ではないため、議会全体としての回答は難しい。

佐藤議員 市民の皆さんから請願・陳情として議会に提出していただき、議会で審議するということが一つの手続きとして考えられる。

宮野議員 保安林解除は県知事の許可となるため、県の動きを注視していきたい。

丸岡議員 保安林解除の許可申請は市長が行うものであり、市長の役割が重要である。



〈意見〉

意見① 道路建設による生態系へのダメージについて、40 キロに及ぶ新設道路の両脇 3 キロに深刻なダメージを与えとなれば、鹿角市の総面積の約 3 分の 1 に相当する 240 平方キロメートルに影響が及ぶ。熊などの野生動物が里に下りてくる危険性も懸念される。

また、2002 年に八幡平で新種植物「ハチマンタイアザミ」が発見されるなど、鹿角の自然にはまだ眠っている資源があり、自然を活用する方向に進むべきではないか。

意見② バードストライクについて、北海道幌延町の風力発電では事前予測の約 10 倍の事故が発生し、センサーによる対策後も事故が続いたため、現在は日中の発電を停止している。

青垣山は渡り鳥のルートに当たり猛禽類も生息しており、経済合理性の面からも問題があるのではないか。

意見③ 業者が住民説明会と経産省に対して述べた内容に相違がある。また、風車に使われる部品の多くが中国製であり、関西電力と中国企業との資本関係を踏まえた安全保障上の懸念がある。

意見④ 鹿角市の再生可能エネルギー供給率はすでに 300%を超えており、自然を壊してまで風力発電を増やす必要性に疑問がある。

固定資産税収入があれば、地方交付税が差し引きされ、ほぼゼロになるとの指摘があり、税収メリットは限定的である。

秋田県での事例では 2 万人の雇用増予測に対し、実際の作業員は数十人程度であり、三重県青山高原では 25 年間で地元新規雇用がゼロであった。

計画地の 90%以上が保安林に指定されており、保安林解除なしには事業実施が困難であることも指摘された。

議員は市民の命と財産を守る責任があり、市民の不安に寄り添うことが務めである。

また、「予防原則」(未来に一つでも危険要素がある場合は避けて通る科学の原則)に則って判断すべきである。

意見⑤ かづのパワーとかづのグリーンエネルギー社が第三セクターとして一体化した場合、赤字・倒産時の負債が市に回る最悪のシナリオが懸念される。

意見⑥ 旧坑道の図面が存在しない状態で、ボーリング調査のみでは旧坑道の全容把握は困難である。業者はボーリング調査と坑道近傍の空洞調査を合わせて行わないと回答しており、この状態で安全に事業を進められるのか疑問である。

意見⑦ 青垣山は非常に危険な山であり、山を削れば毒水が流れ農業・河川・海への影響が生じる。この山に手をつけるべきではない。

意見⑧ 今後 20 年の事業期間終了後、原状復旧は現実的ではない。調査・建設・撤去まで含めると 30 年以上かかる見込みであり、自然の回復には長い時間がかかる。いじくれば全てデメリットである。

※参加者からの意見や発言の中には個人の見解が含まれている場合があります。
事実確認までは行われておりません。